

授業科目名	人間理解のための人体構造学Ⅰ (英: Anatomy for understanding human beingⅠ)		
対象学年	医学部医学科1年生 薬学部1年生	単位	1単位
科目責任者	いけがみ こうじ 池上 浩司	所属	解剖学及び発生生物学 (内線 5110)
		メール	k-ikegami@hirohima-u.ac.jp
授業方法	講義		
概要	<p>多様な生物の一つである人間の理解へ向けて、人体を構成する器官や組織、細胞の示す形態学的な特徴を学ぶ。具体的には「人体の各器官の正常構造と機能」「成長と発達」に関連する以下の項目を扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な生物のひとつの種であるヒト Homo sapiens の体を、形態学の面から理解する</li> <li>・人体の構造を分子レベルから肉眼レベルまで把握する</li> <li>・各器官の構造をその機能的意味と関連付けて理解する</li> </ul>		
到達目標	<p>位置関係を方向用語(上下、前後、内・外側、浅深、頭・尾側、背・腹側)で説明できる。  骨髄の構造を説明できる。  脾臓、胸腺、リンパ節、扁桃とPeyer板の構造と機能を説明できる。  骨・軟骨・関節・靭帯の構成と機能を説明できる。  頭頸部の構成を説明できる。  脊柱の構成と機能を説明できる。  骨盤の構成と性差を説明できる。  心臓の構造と分布する血管・神経、冠動脈の特長とその分布域を説明できる。  心筋細胞の微細構造と機能を説明できる。  大動脈と主な分枝(頭頸部、上肢、胸部、腹部、下肢)を図示し、分布域を概説できる。  主な静脈を図示し、門脈系と上・下大静脈系を説明できる。  胸管を経由するリンパの流れを概説できる。  気道の構造、肺葉・肺区域と肺門の構造を説明できる。  肺循環と体循環の違いを説明できる。  縦隔と胸膜腔の構造を説明できる。  各消化器官の位置、形態と関係する血管を図示できる。  腹膜と臓器の関係を説明できる。  食道・胃・小腸・大腸の基本構造と部位による違いを説明できる。  肝の構造と機能を説明できる。  歯、舌、唾液腺の構造と機能を説明できる。  腎・尿路系の位置・形態と血管分布・神経支配を説明できる。  腎の機能の全体像やネフロン各部の構造と機能を概説できる。  男性生殖器の形態と機能を説明できる。  女性生殖器の形態と機能を説明できる。  各内分泌器官の位置を図示し、そこから分泌されるホルモンを列挙できる。  副腎の構造と分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。  眼球と付属器の構造と機能を説明できる。  眼球運動のしくみを説明できる。  外耳・中耳・内耳の構造を図示できる。  聴覚・平衡覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。  口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の構造を図示できる。</p>		
講義日程	第1回 人体解剖学の概論 第2回 人体を構成する組織と細胞 第3回 人体を構成する器官：循環器系・血液Ⅰ 第4回 人体を構成する器官：循環器系・血液Ⅱ 第5回 人体を構成する器官：呼吸器系 第6回 人体を構成する器官：消化器系Ⅰ 第7回 人体を構成する器官：消化器系Ⅱ 第8回 筆記試験 (場合によってはレポートを課すことがある) (授業計画は受講者の理解度や講義の都合により変更の可能性はある)		

出席の取り扱い	講義の出席が3分の2に満たない学生については試験を受けられない。
評価項目	到達目標の達成度（基本的理解と知識の応用）
評価法	講義終了後に筆記試験を行う。 評価は定期試験の結果を中心に、講義への参加態度なども踏まえて総合的に評価する。
履修上の注意 アドバイス	参考書を参照しながら、授業で行う小テストなどの演習で理解度を確認し、学習をすすめる。
推奨参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カラー人体解剖学—構造と機能:ミクロからマクロまで（西村書店）</li> <li>・ カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版（日本医事新報社）</li> </ul> など授業中に適宜指示する。